

令和2年度中野市長定例記者会見（2月） 顛末

- 期日 令和3年2月24日（水）
- 時間 午前11時～11時45分
- 会場 市役所5階 52・53号会議室
- 出席社 6社（テレビ北信、北信ローカル、信濃毎日新聞、新建新聞、読売新聞、朝日新聞）

<質疑応答>

—令和3年度予算案の概要について—

【朝日新聞】

3ページ、一般会計の歳入「寄付金」が令和2年度に比べ倍増の7億円になっているが、これについての要因を教えてください。

【市長】

令和2年度中のふるさと納税が大幅に伸びております。返礼品の内容は、リンゴ等の農産物、また光学レンズなどの地場産・地場製品です。

【朝日新聞】

寄付金が倍になるというのは結構大きなことだと思う。その辺りについての要因を教えてください。

【市長】

令和2年度、ここまでで6億円弱のふるさと納税の寄付金が集まっており、その伸びを鑑みて7億円という数字を見込んでいます。

【信濃毎日新聞】

22ページ、廃止・縮小した事業の中で、高齢者支援課に係るものが4項目、障がい者に関係する福祉課が1項目あり、目立つ感じがする。そういった方へのサービスが後退するという印象にとられかねないと思うが、どのようにご説明されるか。

【市長】

全体的に、既にサービスが整備・充実していた事業であるとか、ここで新た

に見直しをする事業、また新型コロナの影響で今回は縮小する事業もあります。また地域医療従事医師奨学資金貸付金など、ある程度の目的を達したものについては廃止させていただいています。高齢者に関して新しく始めるものも予算に盛り込んであるので、細部に来ましては後ほど担当課にお聞きいただければと思います。

【信濃毎日新聞】

市長は昨年度の市長選での選挙戦で、神宮球場での農産物のアピールなどについて費用対効果を検討し見直すとおっしゃっていた。そちらはどのように反映されているか。

【市長】

それについては既に方向性を変えてあり、廃止または縮小しています。該当する事業についてはそれぞれ担当課でお答えをしたい。

【読売新聞】

関係人口の創出事業で拠点づくりとおっしゃっていたが、具体的に決まっていることなどはあるか。

【経済部長】

今年度、市内の商店だった施設の所有者の方から、土蔵を含め一式を寄贈いただきました。そこをリニューアルして関係人口の創出拠点をつくり、地域おこし協力隊も活用しながら、移住促進につなげていくために計上した内容。具体的な活用方法については、これからプロポーザルを行い選定していきます。

【北信ローカル】

1 ページの予算編成について、地域資源を有効に活用する施策を最優先、とあるが、具体的には何のことなのか。

【市長】

市民会館リノベーションやもみじ荘の改装をはじめ、17 ページのまちづくり推進事業では地元の団体等や地域にある農産物等のマルシェを開催していただくなど、外から人を呼び込む事業や、千曲川や高社山を活用したアウトドアスポーツイベント事業や、市内の記念館などの観光地を巡る観光バスなど、既存の地域資源を活用することとしています。

【北信ローカル】

今回の予算について、名前をつけていただくとしたら。

【市長】

コロナ禍の中、積極財政、一步前進予算といったところです。

【読売新聞】

財政調整基金が9億ということで、減ってきているようだが、適正規模については何のくらいととらえるか。

【財政課長】

中野市の場合、標準財政規模が約125億となっています。何かで決まっているわけではないのですが、そのうちの1割、12億が財政調整基金として適正という一つの目安かと思います。まだ予算の段階ですので、決算の段階でどのくらいになるかというのもありますが、今のところは大丈夫だと考えております。

—その他発表に対する質問—

なし